

## シンポジウム

### 「生涯スポーツ学のこれから：体系化をめざして」

日時：12月2日（土）14:00～15:30 場所：水野講堂大ホール

1999年に日本生涯スポーツ研究会が開催され、日本生涯スポーツ学会が誕生しました。初代会長の波多野義郎先生は、従来の体育・スポーツ関連学会に見られた自然科学と社会科学の二分化だけでなく、生涯スポーツ学研究における実践科学の重要性を強調されました。

また、2000年の第2回学会大会の基調講演では、池田勝先生が「情場学会」として本学会の在り方について指摘されました。その中で、「クリエイティブな新たな情報、あるいは新たな知識を生み出してそれを提言していくことが大事ではないか」と述べられています。

本シンポジウムは、学会設立から四半世紀を迎える今、学会設立の原点に立ち返りその理念を再認識しつつ、日本生涯スポーツ学会および生涯スポーツ学のさらなる発展に向けた方向性を模索していきたいと考えます。

## シンポジスト



社会科学の立場から

秋吉遼子（あきよしりょうこ）

東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科講師。順天堂大学スポーツ健康科学部卒業。神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程後期課程修了。東京国際大学客員講師を経て、2017年同学科着任。日本中学校体育連盟：全国大会組織の在り方改革プロジェクト委員、神奈川県地方創生推進会議委員、日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域理事などを務める。共著に『生涯スポーツ実践論－生涯スポーツを学ぶ人たちに－改訂4版』（2018年、市村出版）など。



自然科学の立場から

松下宗洋（まつしたむねひろ）

東海大学体育学部生涯スポーツ学科講師。東海大学体育学部生涯スポーツ学科卒業。同大学大学院体育学研究科修士課程。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了。獨協医科大学公衆衛生学講座助教を経て、2018年同学科着任。専門はスポーツ疫学。研究のミッションは「（スポーツをやりたい人と思う人を増やし）スポーツをやりたいと思う人がスポーツを楽しめる環境を整えるためのエビデンスを提供する」である。健康づくりの観点から身体活動・運動に関する研究を進めてきたが、最近ではスポーツ社会学、体育経営管理学、スポーツ人類学等と様々な分野の研究者と意見交換する機会が増えている。



実践科学の立場から

安光達雄（やすみつたつお）

日本スタビライゼーション協会 理事長、ドラウタビリティ協会 会長、PCY, Ltd. 代表取締役、日本医師会・日本赤十字社協力事業 ヒューマン・ケア【心の絆】プロジェクト 顧問、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会推進事業 Olympic Moves プログラム開発・指導、世界各国の代表選手やプロスポーツ選手及びその指導を行う指導者の教育を手掛けている。スタビライゼーションやドラウタビリティ等のトレーニングメソッドを研究・開発し世界各国から指導や研究で招聘されている日本を代表するフィジカル・エデュケーターである。博士 [スポーツ健康科学]

## コーディネーター



### 山口泰雄（やまぐちやすお）

神戸大学名誉教授、カナダ・ウォータールー大学大学院博士課程修了（Ph.D.） 神戸スポーツ産業懇話会 代表世話人、笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 上席特別研究員、ASF AA（アジアスポーツ・フォー・オール協会）副会長、日本スポーツ振興センター・競技力向上助成選考委員長、TAFISA 理事（2009-2022）、中央教育審議会スポーツ・青少年分科会副会長、日本生涯スポーツ学会会長などを歴任。主な著書：「スポーツ・ボランティアへの招待－新しいスポーツ文化の可能性－」「地域を変えた総合型地域スポーツクラブ」「健康・スポーツへの招待－今日から始めるアクティブ・ライフ－」他。趣味はテニス。



### 工藤保子（くどうやすこ）

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科 准教授、鹿屋体育大学体育学部体育・スポーツ課程卒業、同大学院体育学研究科社会体育学コース修士課程修了。笹川スポーツ財団や日本スポーツクラブ協会の評議員、日本スポーツ協会や愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会、日本エアロビック連盟、日本財団ボランティアセンター、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構、身体教育医学研究所、関東大学女子バスケットボール連盟の理事を務める。最近の著書として「現代社会とスポーツの社会学」杏林書院（共著）2022年、文部科学省検定済教科書「現代高等保健体育」「新高等保健体育」大修館書店（共著）2022年などがある。